

イタチの腸内に出現せる稀有なる線蟲 *Eustrongylides* の一種に就て

(大正十二年四月二十四日受領)

理學士 森 下 薫

北里研究所奥村理學士の好意に依り同氏が、大正八年七月京都府下佐山にてイタチの腸内より採取せられたる極めて珍奇なる線蟲の一種を検するの機を得たり。標本は三箇にして總て幼若なるものなりき。余は、其形態上腎蟲 (*Dictyophyme venale*) に酷似せるを以て、恐らく該蟲の幼若なるものならんとし、若し然れば只に其腸内に出現せしことの興味あるのみならず、更に感染徑路に關して或種の暗示を與ふるものなりとて大正十年十一月東京動物學會の席上、寄生蟲講演會に於て其大意を報告せり。當時材料の貴重なるため只全標本として觀察せしが、尙飽き足らざる點ありしため終に蟲體を破壊し部分的に詳細なる觀察をなしたる結果、余の從來の知見に訂正の必要を來たし此處に改めて報告する所以なり。

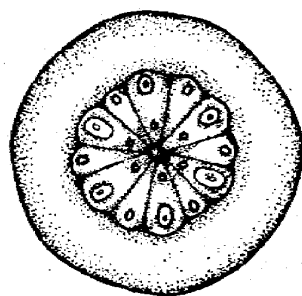
寄生蟲は形態上、腎蟲に頗る類似し、口周乳嘴突起排列狀況の一點を除きては全然腎蟲と異なる所なかりき。然も此點たるや、材料の幼若なるため其決定に關し頗困難を感ぜしむるものあり。蟲體を破壊して始めて知り得たる點なりとす。

標本は總て未成熟の雌蟲なり。蟲體は長き圓筒狀にして全長に渡りてほど同體幅を有す。最大幅 Specimen No. 1 (以下測定は總て此に依る) に於て約〇・八八耗にして體の中央部にあり。前部は截切形後部は直腸附近にて急に狹小となり、後端は鈍圓に終る。此部は一見雄蟲の鐘狀交接囊の未完成のものに類似し、後述の如き生殖系統の構造 (本屬雌蟲の生殖器と腎蟲雄蟲の生殖器とは其構

造の原則に關して頗相似たり) と共に、余が先に本蟲を腎蟲の雄なりと誤認せし所以のものなり。

Sp. No.	Body Length in mm.
Specimen No. 1	58
Specimen No. 2	60
Specimen No. 3	80

背腹正中線及側線は認められず。全體のクチクラに微細なる横條痕あり。前體部に特に著し。口は多角形にして其周に乳嘴突起の二環列あり。内環列は六個の小突起より成り、二個は兩側に、四個は亞中部にあり。圓錐狀にして丘狀の基部を有せず。外環列は十二個の突起より成り何れも基部を有す。内六個は内環列の小突起と相對峙して位置し、側部の二個は特に顯著なり。他の六個は小にして、四個は亞側部に、二個は背腹正中部にあり。即ち大突起と交互に位置す。普通全標本にて見らる



頭部前面觀

は外環列の六個の大突起のみなり。これ *Dictyophyme* 屬と誤診され易き點なり。口腔は淺き漏斗狀にして、直ちに食道に連らなる。食道は頗長く多少彎曲せり。長さ

約十一耗、幅、前端部に於て〇・一五耗、最大部は後端近くあり〇・二四耗なり。食道は殆幅を變せずして腸となる。腸は *Diocotophymidae* 科特有の支持纖維に依り體腔内に支持せらる。支持纖維は又食道にも見られ。直腸は急に狹小となり圓錐形にして長さ〇・五六耗なり。肛門は後端中央に開く。生殖器は未だ充分に發達せず。卵巢は腸の終端附近に起り前行して食道の後端を去る一・一耗の前方にて翻轉して後行し、陰門は肛門に密接して開く。卵巢の部は多少太けれども、發達して子宮となるべき部分は未だ一細管たるに過ぎず。

以上の記載に見る如く本蟲は *Eustrongylides* 屬のものなり。而して本層中十八個の口周乳嘴突起を有するは *E. perpapillatus* JÄGERSKIÖLD, 1908 のみなり。然れども乳嘴突起の形態に關しては多少の相異あり。即ち JÄGERSKIÖLD の記載に依れば内環列の小突起にも圓丘狀の基部ありとなせども余の材料に於ては認められず。されど、これ蟲體の幼若なるためなるやも知れず。故は此點を除きては本種は恐らく *H. perpapillatus* 或はそれに非常に近親のものとなふを得べし。

本屬の種類は從來の經驗に依れば總て魚類を常食とせ

る涉禽類の前胃腺に寄生す。余の材料のイタチの腸に寄生せしは珍らしき例なりと云ふべし。

LEUCKART は淡水魚の一種 (*Galaxias*) に被包せし未熟線蟲 (古くより *Filaria cystica* として知らる) を以て腎蟲の幼蟲なりとし、腎蟲は或種の淡水魚を喰ふことに依り感染するものなりと主張せり。然れども此未熟線蟲も亦腎蟲にあらずして *Eustrongylides* 屬のものなること JÄGERSKIÖLD も云へり。LEUCKART は既に各六個より成る内外兩環列の乳嘴突起を認め乍ら此の誤をなしたるは體の諸構造が餘りによく類似せるためなり。LEUCKART の論斷破れ、余の推論又其誤なりしを知る。かくて腎蟲の感染経路に關しては全然未知の現況にあるなり。攔筆に臨み五島教授に敬意を表し、材料を惠授せられたる奥村理學士の好意を感謝す。(完)

文 献

- 1876 LEUCKART, R.—Die menschl. Parasit. etc. 2ter Bd. p. 381-388.
 1908 JÄGERSKIÖLD, L.—Zur Kenntnis d. Nematoden-Gattungen *Eustrongylides* und *Hystrixis*. Nova Acta Regl. Soc. Sci. Upsaliensis, Ser. IV, Vol. 2, N. 3.
 1921 森下薫—イタチの腎蟲並に *Diocotophymidae* に就きて。動雜第三十三卷二〇一—二一〇頁。